



連載: アジアのアニメ事情 (最終回)
インドネシアのアニメーション

山口 康男



1998年秋、ジャカルタの日本総領事館に集まったインドネシアの熱狂的ファンの若者たち、レクチャーに聴き入る。(筆者提供)

1998年の秋、私とアニメーターの角田一氏はアニメ紹介事業の一環としてインドネシア共和国を訪問しました。スハルト軍事独裁政権に代わって、新しくハビビ大統領が就任し、国民の間に自由の雰囲気のみならず、街には活気が溢れていましたが、しばしば暴動が発生し、政府がこれを鎮圧するという時代でした。その年の春先に日本人拉致事件があり、日本人の一部が帰国するなど、政情不安の中での訪問でした。当時のジャカルタには新興

のアニメプロ (CGを含む) が15社あり、ハリウッドから新しいデジタルシステム機器を導入しCMやPR、教育アニメ作品などを製作していました。中でも有名な地震工学博士兼トップ建築家のダニエル・ハルジャント氏はスピルバーグの映画に触発されてVHQ*プロを興してCGアニメに転身し、話題をさらっていました。彼らの目標はハリウッドで、日本は眼中にないようでした。しかし子どもたちは『ドラえもん』や『美少女戦士セーラームーン』などに熱中し、若者たちは日本へのアニメ留学や製作プロへの就職を熱望し、私たちを困惑させたものでした。国産TVアニメは皆無で、放送局は日本のアニメが安くて面白くて人気も高く、国産アニメではビジネスにはならないとして全く無関心のようでした。そこで新興のCGスタジオはCMやPRなどの受注製作にしのぎを削ることになります。

ところで、インドネシアには古くから影絵というアニメの見世物があります。8世紀ごろから



最新のCGアニメ『Diana (ダイアナ)』より。(ハローモーション代表ワユ・アディティヤ氏提供)

各地には誰でも知っている影絵劇ワヤンの伝統があり、広く民衆に親しまれてきました。この物語をTVアニメのシリーズにしたいという暗黙の国民的悲願があるようにさえ思えます。それにしても国民の90%がイスラム教徒と言われるお国柄でありながら、ヒンズー教の聖典『ラーマヤナ』や『マハーバーラタ』をワヤンに仕立て、倫理・情操教育の素材として定着させているというのも面白い因果関係です。

今インドネシアのCGアニメの制作技術は成熟し、海外との協業を模索しています。

※ Video Headquarter

やまぐち やすお

日本動画協会専務理事・事務局長。東映動画で『ゲゲゲの鬼太郎』などの演出や、企画プロデューサーとして『キャンディ・キャンディ』などに携わる。東映アニメーション研究所を設立。



食卓満載、食欲旺盛

イスラム暦の9月は、イスラム教徒にとって聖なる月である、ラマダン (断食) 月*。夜明け前に朝食を取った後は、日没まで一切の飲食はしない。そんな苦行をやる気は更々なかったが…気がつくとなっていた。引越しの合間に居候したオフィスでつい「私も参加してみようかな」と言ったのが事の始め。住み込みのドライバーやコックさんに朝の4時半に起こされて、眠い目をこすりつつ食卓へ。朝から、チキンカレーやナン、果物等…重い。でも、手作りのヨーグルトドリンクは格別においしい。それから彼らはお祈りに、私はベッドにてもう一眠り。やってみると、それほど苦しくはないが、口の渇きは慣れないと気持ち悪い。「そうだ、歯

アジア太平洋現地発

パキスタン
断食を楽しんでみる!

大橋 知穂

磨きですっきりさせよう」と思ったら、これは良い香りを味わうことになるからダメ。体調を崩しても、昼間は、薬はNG、注射も体に入るのでダメだとか。だから、日没後のクリニックは大盛況だ。

コックさんはインドとの国境紛争のあるカシミールから、ドライバーと警備員はアフガンとの国境に近い北西辺境州からの出稼ぎ組だ。ラマダン中は、家族そろって、夕食の準備をしているうちに、お腹が空いているのも忘れてしまう一体感が生まれるのだという。親戚や友人と同じ思いをして、同じ時間に始める夕食は格別の味がする。確かに、仕事先でも「私も断食中なので、お水もお茶も結構です」というと、格段に受けが良く、普段以上に交渉が上手くいく。

さて、家族と離れた出稼ぎ組…食卓に上る食事は、質素なもの。でも、みんなで

おおはし ちは

識字・ノンフォーマル教育専門家。ACCU、ユネスコなどでの教育、図書開発活動を経て現職。JICA (国際協力機構)、パキスタンのパンジャブ州識字行政改善プロジェクト (フェーズII) に、プロジェクトアドバイザーとして関わる。最近パキスタンの詩と自然に関心あり。

「後、何分?」「その時計2~3分進んでるよ、まだまだ!」とわくわくしながら一緒に食べる夕食は格別においしい。そして、一番おいしいところを私にくれる心遣いもうれしい。

ニュースでは、自爆テロや空爆の話でしか伝えられないパキスタン。そこにも普通の日常があって、見た目はがさつでも、心優しい人たちがいる。

(写真は筆者提供)

※ 2009年パキスタンでは8月22日から9月19日。



オフィスのスタッフと共に (筆者は左から四人目)